第124回 長崎大学FD実施報告書(平成27年11月3日提出)

1. 題 目:全学モジュール第4クールの授業設計について

2. 日 時:平成27年8月18日(火) 16:00~18:00

平成 27 年 8 月 19 日 (水) 10:00~12:00, 16:00~18:00

平成 27 年 8 月 31 日 (月) 16:00~18:00 平成 27 年 9 月 1 日 (火) 10:00~12:00 平成 27 年 9 月 16 日 (水) 11:00~13:00

3. 場 所:第5会議室(教育学部2階)

4. 主 催:教務委員会

企画・実施: 評価・FD 教育改善専門部会

- 5. 対 象:全教職員(おもに全学モジュール関係者)
- 6. 長崎大学FDに関する指針第二項への該当について【複数選択可】 (該当するものに○を記入すること)
 - 「](1) 教員の教育活動に関するもの
 - [](2) カリキュラムの改善に関するもの
 - [](3) 教育の組織的改善に関するもの
 - [](4) 入学者選抜方法の改善に関するもの
 - [](5) その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの
- 7. 今回のFDの趣旨・意義(6. に関連した形で記述すること)

第4クールの全学モジュール科目では主に「考える力」の向上をめざした授業を準備していただき、さらに効果的なアクティブラーニングを進めていただくことになっております。しかし、授業設計にあたって、具体的にどのような「考える力」をめざすのか、またそのために適切なアクティブラーニングの方法はどういうものかなどについて十分な情報提供がないまま来ておりますので、お困りの先生方もおられることと拝察します。

そこで、後期授業の準備に際して、大学教育イノベーションセンターの教員が先生方の 疑問やご要望をお聴きするとともに、授業設計の支援をさせていただければと考えており ます。できれば各科目責任者の先生方にもお声がけいただき、後期授業の具体的な準備の 機会としてお役立てください。

8. プログラム構成 [題目・担当講師]

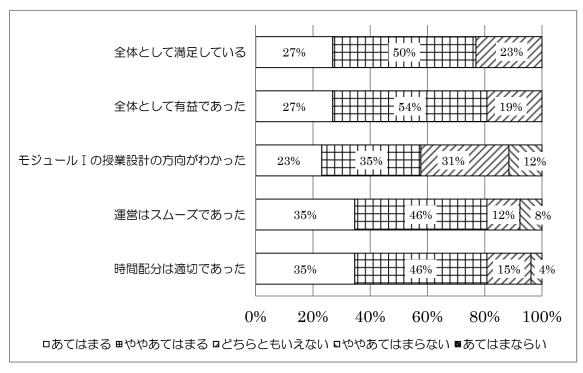
【講師】 山地弘起 教授(大学教育イノベーションセンター) 若菜啓孝 教授(大学教育イノベーションセンター)

【内容】

- ① モジュール方式の確認
- ② 第4クールでの変更点
- ③ 現在の課題 (意見交換)
- ④ 授業設計に役立つコンテンツ類(紹介)
- ⑤ 「考える力」に焦点をおく授業設計指針
- ⑥ 実際の授業設計へ(支援)
- ⑦ 質疑応答・まとめ
- 9. 参加者: 26名(受講証発行対象者: 25名) (內訳)

所 属	人	数
教育学部		3
経済学部		5
多文化社会学部		1
工学研究科		3
医歯薬学総合研究科 (薬系)		3
医歯薬学総合研究科 (保系)		1
水産・環境科学総合研究科(水産)		1
水産・環境科学総合研究科 (環境)		4
原爆後障害医療研究所		1
核兵器廃絶研究センター		1
ICT 基盤センター		2
大学教育イノベーションセンター		1
計		26

- ※ 別紙に参加者名簿を添付してください。
- 10. 実施したFDの成果等
- (1) 参加者からの評価



(回答者: 26名)

- 今回参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。
- インストラクショナル・デザイナーに期待します(教育職員)
- 他学部の話がきけたのは良かった。教育職員)
- ・ 教員の負担が大きくなってきている。(教育職員)
- ・ 多人数での授業設計について,迷いがありますのでまた宜しくお願いします。(教 育職員)
- ・ 旧来型授業形式のうちアクティブラーニングに該当する要素を広く知らせること は有意味だと考えます。(教育職員)
- ・ 参加してよかったと思います。(教育職員)
- ・ とても勉強になりました。こういう機会があれば、また参加したいと思います。(教育職員)
- ・ 他の先生方とこのような形で意見交換をしたことがなかったので、非常に興味深かった。説明もわかりやすかった。(教育職員)
- ・ 頭の中が混迷中。対象学生のレベルをかえりみると"考える力"以前の問題であり (担当教員がほぼ同じような意見),どう授業に参加させるかを常に考えています。 課題提出を求めてもレスポンスがあまりなく…。(教育職員)
- ・ 刺激を受けました。(教育職員)
- ・ 大変わかりやすく説明していただきました。有難うございました。(教育職員)
- ・ 授業体制(クォーター制,モジュール制)がはっきり決まってから、具体的な内容

- を考えて行ってもよいかもと思いました。(教育職員)
- ・ アクティブラーニングの手法について、モデルとなるものを具体的に提示された方がむしろやりやすい。その上で、個別に改良しオリジナリティーを出せば良いので。 (教育職員)
- 参考にさせてもらいます。(教育職員)
- ・ 「考える力」に焦点をおくということは分かりました。具体的な授業の設計にはあまり役に立ちそうにはありませんが、今後の(来年)設計で「考える力」を入れる方法を考えたいと思います。(教育職員)
- ・ ていねいな対応に感謝します。モジュール科目全てにアクティブラーニングの授業 スタイルが適当なのか、未だ疑問はクリアではありませんが、様々なスタイルのア クティブラーニングがある事は理解しました。(教育職員)
- ・ 今回参加して,今までの授業の仕方を根本的に変える必要があるかもしれないと思いました。(教育職員)
- ・ 他のモジュールの状況を垣間見ることができ、必要とされている視点が新たにわかったように思います。クォーター制に向けた下準備の要素がもう少し含まれていると、より有益だったかと思います。(教育職員)
- 内容面・運営面のいずれでも、何か改善を要する点にお気づきでしたらご記入下さい。
- 考え方か知識か、もう少し焦点をしぼった方が良いのではないかと感じています。 (教育職員)
- ・ イノベーションセンターか、事務か分からないが部局長を担当者にするのはやめて ほしい。これだけの負担をするのは部局長には不可能。(教育職員)
- ・ 今回は,第4クールの授業設計(案)について意見収集が目的だったのでしょうか。 (教育職員)
- ・ シラバスを使って何かをするのかと思っていたのですが、それは違ったのでしょうか? (教育職員)
- ・ お話をうかがい、私自身、努力が必要だと思いました。教員同士の連携の必要性も 感じました。(教育職員)
- コンテンツを LACS にアップしてもらえるとたすかるのですが…。難しいですよね…。(教育職員)
- ・ 文系,理系と分けて行った方が同じような問題をかかえているので良いと思います。 (教育職員)
- ・ 他学では教養教育専任教員が担当していることを各部局に振っているので、なるべく負担のないように運営して欲しい。(教育職員)
- ・ 他大学の事例に期待しています。(教育職員)

- ・ モジュール授業に教員側はあまり多くのエフォートはかけられない。ハンドリング される側は効率的な授業運営を実施する方法を中心に提案をして欲しい。(教育職 員)
- ・ 毎年のようにシステムや要求される授業内容が変わるので、授業準備の負担が大き すぎると感じます。(教育職員)
- 今後、FD・SDのテーマや実施方法などに関して何かご希望がありましたら、ご記入下さい。
- ・ LACS の応用編(教育職員)
- ・ 今回の内容についてある程度決まったら全体に対して FD を行ってほしい。(教育職員)
- ・ このような場を時々開催していただければ助かります。(教育職員)
- ・ 具体的な演習等もあるとよいと思います。(教育職員)
- ・ 理系(専門分野も考慮して)の授業はどうしたら文系の学生にも興味を持たせてさらに持続させるかの方法など。(教育職員)
- ・ 具体的なイメージがつく例を示して欲しい。(教育職員)

(2) 総 括(10(1)を踏まえFD全体の総括を記述する)

モジュール I の約 7 割のテーマから責任者と一部の科目担当者が参加されたが、モジュール方式の内容や第4クールの変更趣旨等が十分伝わっていなかったことが明確となった。今回のように日程調整を行い、テーマ責任者と直接関わる機会を今後ともつくっていく必要が痛感された。

授業設計については、すでにシラバスが学生に示されているため大きな修正はできない 状況であり、「考える力」に焦点をおくアクティブラーニングを可能な部分で導入していた だくよう依頼するに留まった。今後、シラバス作成の段階から情報提供や授業設計支援を 行い、各モジュールの内容やクラスサイズ等に応じて具体的に学習活動や評価方法を提案 していくべきであろう。

11. 実施代表者の連絡先

教務委員会委員長 松坂 誠應

e-mail:nobuou@nagasaki-u.ac.jp 電 話:内線 2003

12. 申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班

主査 入口 忠義

e-mail:fd@ml.nagasaki-u.ac.jp 電 話:内線 2077